

第9章 目標の設定と評価方法

9-1. 目標の設定

(1) 目標設定の考え方

まちづくり方針に基づく誘導方針や誘導施策から、上位計画等の目標も勘案しつつ、人口減少のため増加要因が見込めない場合は現状維持の考え方も含め、令和25年の目標値を以下の様に設定します。

(2) 評価指標及び目標設定

誘導方針	施策	評価指標	基準値	目標値
①都市構造の再編による都市・生活機能の集積	<ul style="list-style-type: none"> 複数の拠点を設定（多核化）し、秩序ある市街地の構成を目指す 生活拠点周辺への居住誘導を進める 増加する空き家など「既存ストック」の積極的・有効的な活用を進める しりべし空き家BANKへの登録を促し、売り手・買い手のマッチングをサポートする 不良住宅の適正な管理又は除却を要請し、まちなみ景観の保全に努める 防災指針に基づき、安全な地域への誘導を行い、「防災・減災」に対応する 	・居住人口密度	33.6人/ha (国勢調査：R2年)	33.6人/ha ^{※1} 人口：8,900人（可住地）を目指す
		・定住意向	76.9% (住民意向調査：R4年)	76.9%を維持
		・住宅取得等支援利用件数	50件 (創生総合戦略：R2年)	100件を目指す
		・災害危険区域の認知度	35.8% (住民意向調査：R4)	35.8%以上を目指す
②鉄道で隔てられている東西のまちの一体による拠点化の強化	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺において、公共交通を含めた東西連絡動線を確保 「リタロード」のバリアフリー化、電線共同溝等の景観整備、沿道地域の活性化と、役場など行政機関が集積する朝日町へのつながりを強化する 	・誘導施設の維持・新設	41件 (中心拠点の誘導施設：R5)	42件
③公共交通ネットワークの再構築	<ul style="list-style-type: none"> 「余市町地域公共交通計画」に基づき、現JR余市駅周辺の「バスターミナル化」を図り、地域公共交通の核となる機能を担保する バスによる「新幹線駅」を含む周辺市町村とのアクセス性の強化を図り、町民のニーズや、利便性を向上し、公共交通の維持を図る 	・町内バス利用者数	2,707人/日 (余市町地域公共交通計画：R2年)	3,120人/日 ^{※2} を目指す
		・町内バス路線の満足度	11.3% (住民意向調査：R4)	11.3%以上を目指す
④地域産業及び観光業の振興	<ul style="list-style-type: none"> 「道の駅」を余市IC付近に新規に計画し、まちのゲートウェイ機能を強化する 「DX化」の推進により、町外からの移住促進を図る 増加する空き家、空き店舗など「既存ストック」の積極的・有効的な活用を進める 	・起業・創業に関する補助制度の利用件数	20件 (創生総合戦略：R2年)	40件を目指す
⑤環境に対応した持続可能なまちづくり(SDGs)	<ul style="list-style-type: none"> 公共公益施設は、都市機能誘導区域内への移設により「集約・複合化」 新たに建設する施設は、環境に配慮してZEB・ZEH化を促進し、「ゼロカーボン」の達成を目指す 	・庁舎内外への未来技術の導入	3件 (創生総合戦略：R2)	6件を目指す

※1 R2基礎調査より、用途地域面積660.7haのうち、可住地は230.0ha（建物）、142.7ha（土地）であり割合は56.4%である。居住誘導区域は472haであるから居住誘導区域の可住地は472ha×0.564=266.2haとすると、居住誘導区域内には、33.6人/ha×266.2ha≒8,900人とすることが目標となる。

※2 バス利用者：令和2年2,707人/日、JR利用者：令和元年1,250人/日、令和2年人口18,000人（国調）、令和25年人口14,212人（ビジョン）から人口減少率0.789とすると、JR利用者はバス転換することから、(2,707人/日+1,250人/日)×0.789≒3,120人/日

9-2. 進行管理と評価方法

本計画は、20年後を見据えた計画ですが、PDCAサイクルの考え方に基づき、概ね5年ごとに、各種統計資料や総合計画、住民意向調査結果等も活用しながら、誘導施策の取組み状況や目標の指標の分析及び評価を行います。

その結果に基づき、必要に応じて誘導区域、誘導施設、誘導施策等の再検討を含む立地適正化計画の見直しを行い、適切に計画を推進します。

